



僕が手に入れた

発達障害という止まり木

柳家花緑 / 著・イラストも

「人間は一人ひとり性格も個性も違うからこそ、世の中おもしろいし、豊かになる」
識字障害を公表した落語家が、多くの人に発達障害について知ってもらおうべく筆を執った。

【目次】

第1章 ひよんなことから識字障害に気づく

●最初は受け入れられなかった識字障害の疑い

- 疲れやすいのにも理由がある
- 先生、発達障害について教えてください 岩波明（昭和大学附属烏山病院長）
×柳家花緑 ほか

第2章 得意なことを、ちょっとずつ伸ばしていく

- “落ち着いたのなさ”で目立っていた
- 「読めない」「書けない」から、授業についていけない
- お母さん、僕を育てるのは大変でしたか？

小林喜美子（柳家花緑の母×柳家花緑） ほか

第3章 苦手なことは、自分なりに工夫する

- 場が読めなくて問題発生
- 専門機関で診断を受けるのが大事
- 発達障害は、人によってここまで違う 柳家花緑×柳家花飛 ほか

第4章 今、僕が思うこと

- 二次障害について理解してほしい
- 洒落がわかるとラクになる
- 家族の理解と支えあってこそ

柳家花緑×小林（花緑・妻）×西澤（花飛・妻） ほか